

「なりきり詩集を作ろう」 心がうごいたことを

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・自己理解

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語科第1学年及び第2学年、「B書くこと」の指導事項（1）「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」の内容を受けて設定したものである。

本単元では、学習指導要領の「B書くこと」の言語活動例（2）「ア 想像したことなどを文章に書くこと。」を基に、身の回りからなりきりたい物を選び、物の気持ちを想像して詩を書く言語活動を位置付ける。

詩は、出来事や様子、気持ちを詳しく書く作文と違い、短い言葉で表現する必要があるため、事柄や言葉をより吟味しなければならない。本単元では普段の生活の中で見たことや経験したことなどから題材を決め、その物になりきって詩を書く活動を行うことで、経験したことをそのまま詩に表すのではなく、物になりきって詩に表すことで自然と物の気持ちを想像し、見たことだけでなく感じたことも言葉に置き換え表現しやすくなると考える。また、なりきり詩を作るために物の気持ちを想像しながら、気持ちに合う言葉を吟味していくことで、語彙を増やし言葉に対する感性を豊かにすることができると考えられる。

○ 児童観

本学級の児童は、9月に「しを読もう」の学習で詩を声に出して読み、言葉の響きやリズムを楽しむ学習を行っている。その際、詩の型を真似て一行詩を書く学習に取り組んだ。雨が物に当たったときの音を詩に表すもので、「かさにあたってぱたん」や「石にあたってとてん」など、物に当たる場面を想像し、言葉に表す活動を楽しんだ。事前のアンケートでは、「想像を膨らませて言葉を考えることが好き」と答えた児童は68%で、その理由として、「自分にしか考えられないものを作れるからおもしろい」を挙げている。一方、「想像を膨らませて言葉を考えることが好きではない」と答えた児童は32%で、「言葉が思いつかない」「どんな言葉を使ったらいいか考えるのが難しい」などの理由を挙げている。また、休みにあった出来事や、学校行事で感じたことを書いた作文では、伝えたい出来事は複数書かれているが、気持ちは「楽しかったです。」や「うれしかったです。」の表現がほとんどで気持ちを表す言葉が固定化してきている。これらのことから、感じたことを言葉で表す語彙が少なく、どんな場面でどんな言葉を使ったらよいか考えることに難しさを感じていることがうかがえる。また、複数の出来事を長々と一つの文に続けて書く児童が多く、伝えたい出来事を短くまとめ、つなげていくことも課題である。物になりきっているいろいろな場面の気持ちを考え、それらの言葉をつなげながら短くまとめる力を付けていくことが必要である。

○ 指導観

課題の設定では、教師が冬休みの思い出で食べたおもちになりきって作ったなりきり詩を読み、何になりきっているのか、何をしている時の詩なのかを考え交流することで、短い言葉の中にその物の情報が入っていることに気付かせる。また、おもちになりきって気持ちを考え交流することで、同じ物でも感じ方はそれぞれ違い、感じ方によっていろいろな詩が作れるおもしろさを感じさ

せ、より自分の感じたことにぴったりくる言葉を探すなどしながら詩を書いていくことに気付かせる。

整理・分析の過程では、物の気持ちを吹き出しに書いて集めることで、様々な場面での気持ちを想像できるようにさせる。物の気持ちを想像しやすくするために、児童にとって一番近い経験である冬休みの思い出を書いた絵日記からなりきりたい物を選び、物になりきって気持ちを想像しながら言葉で表していく。そこから言葉を組み合わせつなげ、自分にぴったりくる言葉やリズムを考えながら詩に表すことで、短い言葉で表現する力を付けさせる。さらに身の回りからなりきりたい物を選び、なりきり詩を書く活動を行っていく。交流する場面では、友達が作った詩を読み、何になりきった詩なのか、何をしている時の詩なのかを考え、おもしろい表現を交流しながら自分の詩に生かしていけるようにする。なりきり詩を書き交流を基に詩を見直す活動を繰り返すことで、なりきり詩集を完成させる。

作ったなりきり詩集は常時活動で保護者の方に読んでもらい感想をもらうことで、物になりきって詩を書く楽しさや、伝わる喜びを感じられるようにしたい。

単元の目標及び内容について

- 見たことや経験したことから、物になりきって詩を書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- 見たことや経験したことなどから詩の題材を決め、見たことや感じたこと、音などを言葉に表し集めることができる。 【書くこと ア】
- 見たことや経験したことから集めた語と語の続き方に注意して、短く詩にまとめることができる。 【書くこと ウ】
- 言葉には、見たことや感じたことを伝える働きがあることを理解して詩を書くことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ア）】

単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
【言語活動】 見たことや経験したことから、物になりきって詩を書く。		
見たことや経験したことから、物になりきって詩を書こうとしている。	見たことや経験したことなどから詩の題材を決め、見たことや感じたこと、音などを言葉に表し集めている。 見たことや経験したことから集めた語と語の続き方に注意して、短く詩にまとめている。	詩の言葉には、見たことや感じたことを伝える働きがあることを理解して詩を書いている。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・なりきり詩を作る活動に向けて、必要な言葉を集め、複数の物になりきって詩に表そうとしている。	・なりきり詩を作る活動に向けて、必要な言葉を集め、物になりきって詩に表そうとしている。
【思考力】	・なりきる物について経験したことから想像を広げ、よりよい言葉を選びながら詩に必要な言葉を見付けている。	・なりきる物について経験したことから想像を広げ、詩に必要な言葉を見付けている。
【自己理解】	・見たことや経験したことから物になりきり、詩として表し伝える楽しさに気付き、日常生活でも詩に親しむことの大切さに気付いている。	・見たことや経験したことから物になりきり、詩として表し伝える楽しさに気付いている。

指導と評価の計画

全8時間

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
		家庭学習 ○冬休みの思い出を日記に書く。 ・冬休みに経験した出来事を絵日記に書く。					
一	1	課題の設定（2） ○物になりきっている「なりきり詩」について考え、詩への関心を高める。 ・「なりきり詩」を読み、なりきっている物を考えたり、どういう経験を詩にしているのかを考えたりしながら、詩への関心を高める。 ・物になりきって気持ちを考え交流し、感じ方によってさまざまな詩ができるおもしろさに気づき、自分も作りたいという意欲をもつ。 ・それぞれ経験したことから物になりきって詩に表し、なりきり詩集を作るという学習課題を設定する。 【本時】	○			・何になりきっている詩なのかを考えたり、物の気持ちを考えたりしながら詩に興味をもとうとしている。	発言 行動観察 ワークシート
	2	○「なりきり詩」を基に、詩の特徴を考える。 ・「なりきり詩」を基に詩の特徴を知り、学習計画を立て、単元で付けた力について考える。			○	・詩と作文の違いを考え、詩の特徴を理解している。	行動観察 ワークシート
二	3	情報の収集（1） ○なりきる物について考える。 ・冬休みの出来事や日常生活を振り返りながら、どんな物になりきれられるかを考え、交流し合う。			○	・今までの経験を振り返り、身の回りからなりきれそうな物について考えている。	行動観察 ワークシート
	4	整理・分析（3） ○冬休みに経験したことなどから「なりきり詩」を書き、交流する。 ・冬休みの思い出を書いた日記からなりきりたい物を選び、物になりきって気持ちを考え、詩に表す。			○	・経験したことからなりきりたい物を選び、物の気持ちを考えながら短く詩に表している。	行動観察 ワークシート
	5	・なりきりたい物を決め、物の気持ちを考え、詩に表す。			○	・身の回りからなりきりたい物を選び、物の気持ちを考えながら短く詩に表している。	行動観察 ワークシート
	6	・友達の詩を読み、いいところや面白いと思ったことを交流し合う。			○	・友達の詩を読み、何になりきっているのか考えながら、よい表現を見付けている。	行動観察 ワークシート

詩の並行読書

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
二	7	まとめ・創造・表現（１） ○詩集にのせる詩を完成させる。 ・友達の詩を読みよかったところをもとに自分の詩を見直し、詩を完成させなりきり詩集を作る。	詩の並行読書	○	○	・なりきった物が伝わるよう言葉を選び、語の続き方に注意して詩を清書している。	作品 行動観察
		常時活動 ○完成したなりきり詩集を保護者の方に読んでもらい感想をもらう。					
三	8	振り返り（１） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・「なりきり詩集」を作ることを通して、見たことや経験したことを詩として表す楽しさに気付く。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点で作品を基に自らの学びを振り返る。		○		・詩を作る活動を通して、物になりきって詩に表し、伝える楽しさについて考え、自らの学びや学び方を振り返っている。	発言 行動観察 ワークシート

本時の学習

（１）本時の目標

- なりきり詩を読んで何になりきっているのかを考えたり、物の様子や気持ちを想像したりしながら、感じ方の違いによって、さまざまな詩ができるおもしろさに気づき、詩に興味をもつことができる。

（２）本時の評価規準

- なりきり詩を読み何になりきっている詩なのかを考え、自分も物になりきって物の様子や気持ちを想像している。

【国語への関心・意欲・態度】

（３）本時の学習展開（１時間目／全８時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 （評価方法） ◎本時で付けたい力
1 なぞなぞ詩を読み何についての詩なのかを考える。	◇これまでの詩の学習を思い出し、詩のリズムのおもしろさや、自由な表現を思い出させる。 ◇なぞなぞ詩を読み、何についての詩かを考えさせ、言葉の意味を自由に交流させる。	
2 本時の学習課題を確認する。 めあて _____ 何になりきっている詩かを考え、物になりきってみよう。		

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力</p>
<p>本時のゴールの見通し A：これまでの経験と結び付けて、なりきっている物の様子や気持ちを想像し説明している。 B：物になりきって気持ちを想像している。</p>		
<p>3 なりきり詩を読み、何になりきっているかを考え交流する。 ○詩の言葉に注目しながら、何の様子や気持ちを書いた詩か考えましょう。 ・君が走ると僕が空に飛んでいるから風かな。 ・風に乗ってだんだん高く上がっていくから風かな。 ・屋根よりも高くあがってながめられるのは風かな。</p> <p>4 物になりきって気持ちを考える。 ○ぼく(おもち)はどんな気持ちでしょう。 ・下から焼かれて熱くて怒っている気持ち。 ・汁につかって気持ちがいいなという気持ち。 ・小豆のお友だちがいっぱいでうれしい気持ち。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>□思考の場の工夫 関連付ける 日常の経験となりきっている物とを関連付けながら、物の気持ちを考える。</p> </div> <p>5 なりきり詩についてまとめる。</p>	<p>◇ペアでなりきっている物が何かを確認させ、一つ一つの言葉が何を表しているのかや、考えた理由を交流させる。 ◇なりきっている物の気持ちを、物の様子を基に考えられるようにする。 ◆何になりきっているのか考えにくい児童へは、音や動きを表す言葉に注目させ何を表しているのか考えるよう声かけをする。</p> <p>◇絵を見せながらなりきりたいおもちを選び、様子や気持ちを想像させる。 ◇なぜそういうおもちの気持ちを想像したのか理由を言わせる。 ◇発表の際には、友達が「やきもち」「ぞうに」「ぜんざい」の内のどのおもちになりきっているのか、気持ちから考えさせる。 ◆気持ちが考えにくい児童へは、気持ちを表す言葉を見せ、合うものを選んで続きの気持ちを考えられるようにする。</p> <p>◇自分のなりきりたい物になりきって詩を作り、詩集にして保護者に読んでもらうという学習課題へ導く。</p>	<p>◎何になりきっている詩なのかを考え、自分も物になりきって物の様子や気持ちを考えている。〔国語への関心・意欲・態度〕 (ワークシート・行動観察)</p>
<p>★めざす児童の姿 私はおもちが下から焼かれて怒っているように見えたので、私になりきったら熱くてやめると怒っている詩になると思いました。</p>		

(4) 板書計画

<p>まとめ</p> <p>なりきりしは、そのものの気持ちを考えて、そのものになりきって作る。</p>	<p>なりきり詩のモデル (おもち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あついじや ・ やけどしち ・ やうよ 	<p>絵</p> <p>やきもち</p>	<p>絵</p> <p>ぞうに</p>	<p>絵</p> <p>ぜんざい</p>	<p>めあて</p> <p>何になりきっているしかを考え、ものになりきってみよう。</p> <p>心がうごいたことを</p> <p>なりきりししゅうを作ろう</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ しるにつか ・ つていい気 ・ あずきの友 ・ だちがいつ ・ ばいでうれ ・ しいな 				<p>A B</p> <p>もの気持ちをそうぞうする</p> <p>〈分かったことば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きみが走った+ ・ 体がういた↓ ・ たこをとばしている ・ やねより高く+ ・ ながめがよくて↓ ・ たこがあがっている

<参考> 「学びのモニタリング」

<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>③ ものになりきってしを作る活どうを通して、考えや気もちをことばにあらわしたえる楽しさに気づくことができた。</p> <p>とても まあまあ あまり まったく</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>② ものからそうぞうして、自分があらわしたいぴったりのことばを見つけることができた。</p> <p>とても まあまあ あまり まったく</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>① すすんでものになりきり、しを作ることができた。</p> <p>とても まあまあ あまり まったく</p>	<p>二年 組 ()</p>	<p>海田東小 学びのモニタリング</p> <p>なりきりししゅうを作ろう</p> <p>心がうごいたことを</p>
-------------------------------------	--	-------------------------------------	--	-------------------------------------	---	-----------------	--